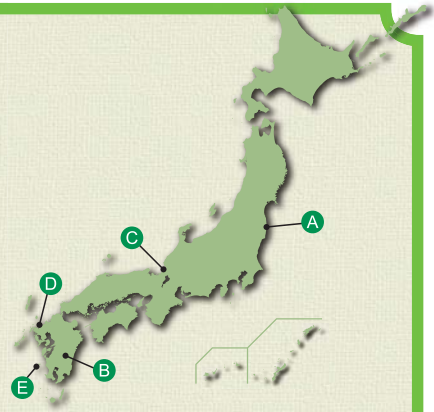


# 振興トピックス

このコーナーでは、主に電源地域の地域活性化に向けたソフト事業の話題を取り上げています。今回は、福島県大熊町、宮崎県西米良村、福井県敦賀市、佐賀県玄海町、鹿児島県薩摩川内市の取り組みを紹介します。



## 大震災から立ち上がる… 『おおちゃん小法師』が大人気

福島県大熊町  
地図 A

大熊町の『おおちゃん小法師』が話題になっています。

本年3月、イタリア各地で開かれていた「東日本大震災復興支援・起き上がりこぼしプロジェクト」の展示会に出展され、プロジェクト推進者のファッションブランド「Kenzo」の設立者高田賢三さんが、開会式で紹介して注目を集めました。

ました。



町内で開催されている「絵付け会」

この『おおちゃん小法師』は、会津地方の民芸品「起き上がり小法師」と大熊町のマスコットキャラクター「おおちゃん」がコラボしたものです。ここには、震災当初の混乱期に多くの町民を受け入れてくれた会津の方々と、町を支援してくれた方々への大熊町の「感謝の想い」が表わされています。

本年1月に、町がデザインを一般公募し、大熊中3年の女子生徒の作品が最優秀作に選ばれ



『おおちゃん小法師』

町では、このデザインをもとに、本年3月から避難住宅などで「絵付け会」を開催して、町民の皆さんが絵付けした『おおちゃん小法師』を、町に対する義援金のお礼として全国に送っています。

そこには、避難を受け入れてくれた会津地方の人たちと一緒に震災から「興(お)き上がる!」そして、「大震災から立ち上がる大熊町・大熊町民を体現する地域産品」にしたい、という願いが込められています。

町内外から「ぜひ販売してほしい」という要望が多いため、今後、町での販売も検討されています。

【お問い合わせ】大熊町企画調整課 佐久間(☎0242-22613844(代))

## 過疎地で約2万人を集客する 交流施設「おがわ作小屋村」

宮崎県西米良村  
地図 B

集落に訪れる交流人口の増加に伴い、住民の集落活性化に対する機運の高まりや自信が生まれるとともに、雇用の場の確保など、波及効果も大きくなっています。

【お問い合わせ】平成の桃源郷おがわ作小屋村(☎0983-3711240)

人口約1,200人、宮崎県内で最小の自治体、西米良村にある住民100人ほどの小川地区にある、年間2万人を超す観光客を集める住民運営の交流施設「平成の桃源郷 おがわ作小屋村」が注目されています。平成21年、かつて農林業の繁忙期に使用していた作業場兼住居「作小屋」を横して、かやぶき屋根にいろいろの板間を備えた施設を村が整備しました。この施設の運営するのは、50〜70代のおばちゃんたち。目玉は山菜など地元食材をふんだんに使った郷土料理。村内だけでしか食べられない食事を提供しています。そのほか、集落内の資源を活用したイベントや、施設周辺の、花木の植樹活動も行っています。



年間2万人を超す観光客を集める

オープンのかきつけは、深刻化する過疎化・高齢化への危機感でした。小川地区の65歳以上の高齢化率は村内で最も高い71%で、集落存続の岐路に立たされています。そうした中、行政と協力しながら、試行錯誤の末、オープンにこぎ着けたのでした。



地元の食材をふんだんに使った「小川四季御膳」

## 近代化遺産回遊ルートの起点となる『赤レンガ倉庫』がリニューアル

福岡県敦賀市 地図 ⑥

かつて敦賀市は、日本海側最大の国際港湾都市でした。明治15年の敦賀〜長浜間の鉄道開業に始まり、敦賀〜ウラジオストク間の定期航路の開設、新橋駅(東京)〜金ヶ崎駅(敦賀)間の「欧亜国際連絡列車」の運行など、ヨーロッパとの「玄関口」として、近代日本の建設に大きく寄与した歴史を持っています。市内の金ヶ崎地域は、列車の灯火に使用されるカンテラの燃料を保管した『ランプ小屋』や、杉原千畝の「命のビザ」で知られる『人道の港 敦賀ムゼウム』などの近代化遺産や展示施設が建っています。その中で、国の登録有形文化財に指定されている『赤レンガ倉庫』は明治38年にアメリカの石油会社が建てた石油倉庫で、かつての繁栄ぶりを今に残すものです。

リニューアルする『赤レンガ倉庫』

この『赤レンガ倉庫』が、本年10月14日に、「ジオラマ館」と「レストラン」が入る施設として生まれ変わります。

ジオラマ館は明治後期から昭和初期の敦賀の街並みを再現したもので、レストランは、魚介専門の日本料理店や、イタリアンレストランなど3店舗が入居する予定です。

敦賀市は、「鉄道と港の遺構」を活かした「金ヶ崎周辺整備構想」を進めており、その全体コンセプトは『敦賀ノスタルジウム』。リニューアルした『赤レンガ倉庫』を金ヶ崎地域の近代化遺産群を結ぶ起点とし、往時の敦賀の街並みの再現を目指しています。

【お問い合わせ】赤レンガ倉庫事務所 (☎0770-471

## 地元名産の『真鯛の日』を伝える

佐賀県玄海町 地図 ⑦

平成26年度の「ふるさと納税」における税収が全国第2位になった佐賀県玄海町。ふるさと納税のお返し品のひとつ、「仮屋湾の養殖真鯛」はこだわりの配合飼料で育てられ、天然ものに近い色と肉質で、人気があります。玄海町では、地元の方にさらに愛される存在になって欲しい

と願い、毎月1日は地元名産の真鯛を食べる「真鯛の日」とする企画を本年9月より始めました。初めての「真鯛の日」イベントとして、玄海町内の保育園で真鯛解体ショーを実施し、給食に鯛の塩焼きを提供しました。【お問い合わせ】佐賀県玄海町役場 産業振興課 (☎0955-52-2199)



全長27m、最大奥行き約7.5mの大きさを誇る鉄道と港のジオラマ「ノスタルジオラマ」

6612) 【ホームページ】 <http://tsunaga-akaranga.jp/>

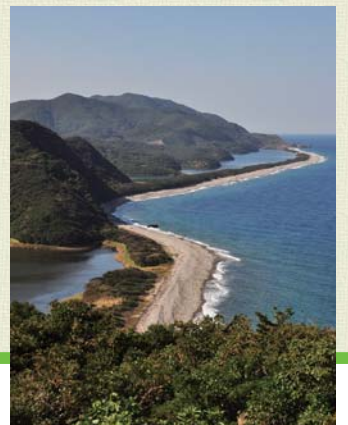
## 薩摩川内市の甌島が 国定公園に指定される

鹿児島県薩摩川内市 地図 ⑧

鹿児島県薩摩川内市の甌島が、多様な海岸景観をはじめとした優れた景観などが評価され、平成27年3月16日に国定公園に指定されました。

現在日本には、56カ所の国定公園が存在しています。今回の指定により、国内では57カ所目、県内では、日南海岸、奄美群島に続き3カ所目の、『甌島国定公園』が誕生することになります。甌島は、昭和56年10月1日に、鹿児島県立自然公園条例に基づき、甌島県立自然公園に指定されましたが、指定に際しての学術調査においては、海岸景観、植物景観、海中景観などを総合すると

上甌島の「長目の浜」。大小3つの池が4kmにわたる砂州で海と隔られている



保育園の給食に提供された大きな鯛の塩焼きにビックリ

国定公園級の景観要件を備えているとの評価を受けていました。また、平成13年12月には甌島周辺沿岸が日本の重要湿地500に、平成21年5月には「甌島の白亜紀—古第三紀層」が日本の地質100選に選定されました。さらに平成24年5月には「甌島の鹿の子断層」が日本の地質構造100選に選定され、その自然環境は高く評価されていました。こういった各分野での高い評価を受け、今回、県において、これまでの県立自然公園区域からさらに公園区域の範囲を広げ、環境省へ国定公園指定の申し出を行い、決定されたものです。念願の国定公園に指定されたことにより、知名度の向上による交流人口の拡大など観光振興への寄与が期待されます。【お問い合わせ】薩摩川内市企画政策部 甌はひとつ推進室 (☎0996-23-5111)